

イデオロギー批判から文化の批判，文化の政治学へ

他の三つのテーマには概ねの時期区分が付されているが，このテーマにはない。創設の当初から文化や教育は重要なテーマだったからである。だが，1990年を前後する時期，やはり論じ方は変わったと思う。もっぱら唯研を通して研究活動の指針を見いだしてきた私の個人的経験に即して，タイトルのような変化に着目して，報告を行いたい。

なお，変化の区分は多数の会員の多彩な研究をかなり一面的に性格づけることなるが，それらは，前3人の報告者がとりあげた各時代の課題に概ね照応するものでもある。

(1) イデオロギー批判としての唯物論（『唯物論研究』1979①～1984⑩）

創刊号特集「現代日本の反動化と思想の問題」（79第2回シンポ）

- ・伊ヶ崎暁生，松尾章一，山科三郎，湯川和夫（誌上シンポ）

現代日本の反動化のイデオロギー的・思想的特質と国民の意識状況を具体的に解明すると共に，反動化とたたかうためのイデオロギー的・思想的変革の方向を指し示す。

→天皇制イデオロギー，教育（指導要領「国歌」），青年（「宇宙戦艦ヤマト」）

（『唯物論』73-79の課題「観念論哲学および反動イデオロギーの批判」）

- ・吉田傑俊「イデオロギーとしての唯物論の立場と課題」

唯物論：現実とその虚偽的反映に対するイデオロギー活動

- ・依って立つ価値：平和，民主主義，人権，科学（社会主義イデオロギーよりも）（⇔マルクス主義，唯物論との暗黙の調和／その点での論争）

それらの価値に反するイデオロギーとしての日本文化，日本文化論，教育政策の批判
4回大会「現代日本文化の問題」81，82 第6号

- ・一方，「今日の現実が提起する諸問題の解明」（創刊の辞／湯川）

同6号からゲストコーナー，小田実インタビュー（佐藤和夫），

文化時評，中西新太郎「力弱い夢・あざ笑う文化」（若者文化論）

(2) イデオロギー批判から文化と生活の批判（『思想と現代』85①～95⑩）

発刊の辞「これまでよりも機敏に，これまでよりも大胆に，私たちの社会がおちいっているすさまじい危機の諸相の解明に取り組んでいきたい。……さらには，当面の危機的事態を克服して真に「人間」の名に値する生活と文化を築きあげてゆく行く方向で解決の展望を明らかにすることができるように」（秋間実委員長）→『思想と現代』

- ・特集「人間の解体？」創刊記念座談会（斎藤茂雄，本多勝一，芝田進午）

核時代，「処方箋よりも，現実から」，障害児殺し，優生思想，価値転換，日本の「思想」の欺瞞性（成長の歪み→「人間の解体」，反映→構成としての文化）

- ・ 85～95 4号86/2「民衆と文化のヘゲモニー」, 6号86/7「教育の現在」, 8号87/3「性—欲望と制度」, 9号87/5「いのとにふれる—バイオエシックスの周辺」, 20号89/12「〈文明批判〉としての家族・子ども・老人」, 22号90/7「フェミニズムと唯物論」, 36号93/6「生活者の文化—民衆文化の伝統と現代」 39号95/2「欲望の人間学」
: 「現実から」の思想の営み →40号95/9「挑戦する唯物論」(編集後記・豊泉)

イデオロギー批判としての唯物論→モラルとしての唯物論

89/91の東欧革命/ソ連崩壊の中での唯研のスタンス

- ・ 88『競争の教育から共同の教育へ』(池谷, 後藤, 竹内, 中西, 吉崎, 吉田千秋)
(『競争の教育』久富善之93),
91『「豊かな日本」の病理—生活と文化のフィロソフィ』(種村・尾関・河野・亀山・太田)
→シリーズ・ラディカルに哲学する94-95, 現代批判の哲学98- 唯研のラディカルズム)

(3) 文化の批判から文化の政治学へ(『唯物論研究年誌』96①～現在②)

創刊の辞「現在の危機は、たんなる世紀末の転換ではなく、……近代的生活様式そのものの真にラディカルな批判が求められている…………『ラディカルであるとはものごとを根元においてつかむことである。ところで人間にとっての根元とは人間自身である』…人間への熱い思いが欠けたところに、自然への関心も、地球への愛も、平和のための努力も生まれるはずがない」(石井伸男委員長)

創刊号「終末の時代を超える」「……それは、それぞれの『わたし』の閉塞したリアリティを『歴史』に抜け出してゆくような知の営みでなければならないはずです」豊泉

- ・ 規約改正02 ((2)期の営みの会としての総括)

第3条 この会は唯物論の研究→唯物論の研究および現代の社会と文化に関する批判的研究の発展と交流を目的とする全国組織である。

- ・ この20年間

90年代後半～社会変化, 00年代～政治的変容, 10年代～政治的危機

新自由主義政策の本格化, 格差と貧困, 小泉～安倍①, 民主党, 2011, 安倍②政権
⇒ 新自由主義への文化的批判→社会的政治的批判/文化の政治学(安倍②～)

2号「相対主義と現代世界—文化・社会・科学」97, 3号「教育・共同・平等」98,
4号「暴力の時代と倫理」99, 5号「新たな公共性を求めて」00, 6号「こころとからだ」01 ……17号「〈いのち〉の危機と対峙する」12, 18号「デモクラシーを研ぎなおす」13, 19号「転換する支配構造—安倍的なもの」14, 20号「〈生活〉を守る思想」15, 21号「文化が紡ぐ抵抗/抵抗が鍛える文化」16, 22号「現代の〈差別〉のかたち」17

- ・ 文化の政治学(焦点: 政治文化) ⇔ 現実と運動 ⇔ 民主主義のラディカル化